

みさき

2号

美咲町議会だより

2005年11月10日発行



主な内容

最後の熱戦・最後の応援 第60回国民体育大会ソフトボール競技少年男子決勝戦H17.10.26
(美咲町中央運動公園野球場)

- 行政報告 —— 2
- たずねました常任委員会報告 —— 4~5
- 一般質問 町政を8人が問う —— 6~13
- 動き出したラストワンマイル(情報基盤)整備事業 —— 16

四年間の最重要施策は 行財政改革 少子化対策

九月定例会 町長の提案説明

九月二十日、定例会が招集され、条例案件十一件、予算案件二十一件、その他案件四件および、美咲町決算（三月二十二日～三十一日）の認定が提案された。審議の結果、全議案を原案のとおり可決・認定した。

行財政改革の

諮問委員会を準備

県の財政状況は、美咲町の行政にも影響する。わが町の財政からも思い切った改革を断行せざるを得ない。
職員による行財政改革推進メンバーで、また、町民による行財政改革諮問委員会を設置し、改革改善を図る準備をしている。

「あれも」「これも」から
「あれが」「これが」へ

少子化対策は、国・県が取り組む政策、町村でも取り組める政策がある。
町では、産みやすい、育てやすい環境条件づくりをする。子育てには、金、手、責任がかかる。これは大きな負担で、どこまで行政で手助けできるか効果のある政策を早急に示したい。
軸足は、老人福祉から幼児福祉に移す時期。

課題は 意識の統一

合併による旧三町の町

民・住民意識の統一と職員の意識統一・能力向上で合併効果を上げることが大切。

職員には3S運動（セーフティ・サービス・スピード）で業務にあたるよう指示している。
不安や不満はあったが、



元気に踊る園児（中央かめっこ保育園）

合併して良かった、結果として正しかったと声が聞かれるよう努力する。

心配した 台風14号

進路の中心が美咲町をややそれたが、梨、ぶどうなど農作物に被害があり、お見舞い申し上げる。
河川の氾濫や土砂崩れなど大きな被害はなく、胸をなでおろした。
町では、特別警戒体制をとり、職員七十人、消防団が配備につき警戒に当たった。
夜間でもあり、警戒にはお礼を申し上げます。

決算

特別委員会報告

五特別会計で 赤字決算となる

平成十六年度美咲町一般会計および二十七特別会計の歳入歳出決算審査をした。

旧三町で合併(三月二十一日)までに執行された決算が、九月定例会に間に合わない、全員協議会で町長から説明を受けた。従って今回の審査は、新町に移行してから(三月二十二日～三十一日)の出納整理期間内までの美咲町で執行された歳入歳出である。

平成十六年度美咲町一般会計および二十七特別会計の歳入歳出決算審査をした。

歳入歳出決算審査をした。従って今回の審査は、新町に移行してから(三月二十二日～三十一日)の出納整理期間内までの美咲町で執行された歳入歳出である。

一般会計、特別会計とも新たな事業などはなく、旧三町での平成十六年度の事業の執行に対する歳入歳出である。

歳入歳出決算審査をした。従って今回の審査は、新町に移行してから(三月二十二日～三十一日)の出納整理期間内までの美咲町で執行された歳入歳出である。

条例改正

津山・西川線共同バス(チェリーバス)運行事業に関する条例

津山市営バス(ごんごバス)との均衡を図るため運賃の改正をする。

津山・西川間が五百円から三百円になる。

亀甲・津山線バス(かめつちバス)運行事業に関する条例

前記と同様、整合性を図るため改正、無料が二百円に。

中央かめつち。ゴルフ場設置及び管理に関する条例

打穴下の福祉ゾーン内グラウンドゴルフ場の管理を中央グラウンドゴルフ協会に管理運営させるもの。

ほぼえみの湯設置及び管理に関する条例

ほぼえみの湯をふるさと物産有限会社に管理運営させるもの。

美咲町高度情報化推進委員会設置条例

光ファイバ敷設に伴い、基盤の整備、活用の調査研究を目的に十五人の委員会を組織するもの。



ホールインワン?(グラウンドゴルフ大会)

臨時会 十月二十一日

歳出予算の補正と債務負

担保(借り入れ金を町が

保証するもの)が提案され、

いずれも緊急を要するもの

で、異議なく承認した。

歳出の補正は、本庁舎内

の放送設備の改修、ゴミ処

理施設の計量器の修理、ア

の接続部分の土地(約千六

もの。

常任委員会報告

総務

十六件の議案が委員会に付託され、審査の結果、全議案を承認した。

十七年度一般会計補正予算の歳入では、地方交付税五億五千五百万円、基金繰入金の減額四億三千万円、延滞金の徴収六百四十万円など一億八千万円を追加し歳入総額百十九億九千七百万円とするもの。
所管の歳出では、財政調整基金へ積立二千万円、ラ

ストワンマイル整備に三百七十万円、消防施設に三百八十万円などである。

特別会計三件、条例改正ほか十二件は、異議なく承認した。

問 西川・津山線、亀甲

答 津山線のバス運賃は、条例で改正された。柵原・津山線はどうするか。柵原線には民間会社との競合もある。津山市と協議し、要望に沿うよう努力する。

産業建設

九月二十六日、委員会に付託された産業、建設、上下水道関連の一般会計補正予算および十二の特別会計補正予算を審査した。

農業振興費千四百万円、道路新設改良費五千九百万円、農道改良等事業費四千万円、中央公共下水道事業費一億二千三百万円が主なもので、予算要求時の補正、旧町からの計画に基づくものである。
すべてを原案どおり承認した。

問 単県水田営農推進事業はこの地区で実施するの。
答 大井和境地区でそばのコンバイン、乾燥機などを六百八十万円で導入する。

問 資源環境システム事業のねらいは。

答 荒廢地に菜の花を栽培。採れた菜種は食用油となり、使用済みの廃食油は再生され農耕車などで利用。自然にやさしい商品として推進。今年度は美作台地を対象とし、来年度から本格的に事業実施したい。

問 岡山県広域水道企業団からの供給水量はどうなっているか。
答 いずれも日量計画最大で、中央簡水(中央)、千七百立方メートル、打六・大井和簡水五百立方メートル、柵原北部簡水二千立方メートル(現在は五百立方メートル)取水している。

問 漏水箇所把握のため努力しているが有収率(総配水量に対する総使用量の割合)はどのくらいか。
答 漏水箇所把握のため努力しているが有収率

問 七月の梅雨前線による災害に対する復旧計画は。



行列のできるそば屋(大井和・紅そば亭)

問 八月末での有収率は中央地区八五・一%、旭地区八四・七%、柵原地区八一・六%である。
答 美作岡山道路へ負担金千百万円。調査区間から整備区間への早期格上げを望む。

問 岡山県の財政事情など遅れている。旧柵原町時代から一億円以上も負担しており、早期実現を強く要望している。
答 七月の梅雨前線による災害に対する復旧計画は。

問 七月の梅雨前線による災害に対する復旧計画は。

要望

道路整備予算確保に係る市町村議会での意見書
世界にはばたく、「元気」な美咲町実現のため道路整備は重要であり、採択した。



料金改正された津山・西川線バス

民生教育

付託された一般会計補正予算は、当初予算要求の70%に査定されており、今回の補正で必要最小限の見直しをしたもの。異議なく、承認した。

問 美咲町の公民館は、何力所か。管理費はどうしているのか。

答 中央地区三館、旭地区一館、柵原地区六館である。それぞれやり方が違っている。統一した方針で管理していきたい。

問 学校施設にアスベストは使用されていないか。

答 疑わしいものが三カ所あり調査した。含有率1%未満で、また、飛散の恐れもなく、問題はないと思われる。教材の器具などは処分した。

問 一般住宅のアスベストは、どうするか。

答 調査中である。検査対象は飛散性アスベスト。



地域の安心（大井和診療所）

問 家庭教育支援総合推進事業とは何か。

答 出産前、思春期、中学生など段階的にグループ学習する事業。全額補助事業である。

問 その他、四特別会計補正予算は、決算に伴う繰り越し調整などが主体。異議なく承認した。

問 大井和診療所の利用状況は、どうなっているか。

答 毎週一回、診療所を開設している。利用者は延べ人数で年間八百八十八人（十六年度）一日平均十七人である。

陳情審査
看護職員等の大幅増員を
求める陳情。
現場は大変、看護師は疲れていると聞く。状況は理解でき採択した。

町内

視察 研修

民生教育委員会

十月五日、七日町内中央地区、旭地区の関係施設を研修した。柵原地区は十一月九日予定。
公民館は各地区管理費など運営も違い、今後統一した運営を行っていただきたい。
小学校は各校特色をもった運営をされていた。
障害のある児童の対応も町費で職員を配属するなど



充実したパソコン教室（旭中学校）



最終処分場の廃水処理現場（江与味地区）

十分な対応がされていた。保育園は職員数も厳しいなかで研修会への参加など、やりくりに変苦労されていた。保育園の待機児も多くあると聞く。柵原地区の幼保一元化の問題は他の地区を参考にしながら進めてもらいたい。

旭の児童館は働く若い人たちに大変喜ばれている。中央地区にも計画中であり、若者定住など応援の意味でも今後各地区で取り組んでもらいたい。

老人憩いの家、老人作業所、コミュニティ施設など地域のコミュニティの場として、また協働のまちづくりの拠点として大変重要な部分である。町内統一された活動が望ましい。

問 一般質問



大切な住民の足（柵原・津山線町営バス）

Q 柵原・津山線もバス料金の見直しを

A 運賃改善に取り組み



寒竹 壽 議員

問 農山村の多くは過疎化とともに民間バスが撤退し、市町村が代行バスを運行。柵原地区において

も一部路線について早くから町営バスが運行され、沿線住民の足が確保されてきた。町内にはほかに二路線が運行され料金は利用者への配慮がなされている。柵原・津山線にも見直しを。また、町内には民間バスが何路線か運行、町の助成の実態は。

答 兼光情報交通課長 柵原・津山線は一部津山市民も利用している。共同運行できればと津山市と協議する。

民間バス運行への町助成金は、中央地区のバスに百万円、柵原地区の中鉄バスに路線維持補助金約二百三十万円、バス路線延長補助金約四百八十万円、片上沿線バス運行助成金約四百七十万円を十六年度で支払っている。

答 奥村町長 少しでも住民の負担を軽くする考えから補助の見直しをするなど、あらゆる角度から検討。政策的なもので発表したい。

Q 職員の適正規模に退職の優遇策を
A 優遇はあってはならない

問 十六年の合併アンケートによると、職員・

議員の縮減により大幅な経費削減の期待が一番多かった。

町三役、議員は合併と同時に縮減され、旧三町と比較すると約二億円の人件費が不要となり財政面で大きな効果だ。

合併により町役場の機構は拡大した。六月議会で町長は、平均的な町職員は人口百人に一人くらいだ。現在の職員数は二百三十三人、町人口は一万七千五百人、約六十人が多いことになる」と説明された。

本年度の予算書によれば一般職の給与費は約十七億円、一人平均約七百四十五万円。六十人で年間約四億四千万円の給与費となる。

超過勤務手当の支給をしないことも大きな決断だが退職の優遇策を検討し希望退職を募る考えはないか。

答 奥村町長 人件費の削減は人を減らしていくしかない。

しかし、優遇措置はあってはならないと思っという。改革の道を歩むということで、理解いただきたい。

Q 2億6千万円の未納金は
A 徴収に努める

問 町から貸付金など未納の詳細が公表された。公正・公平の原則から多額の未納問題は町民の注視の的である。町長を先頭に職員一丸となり整理に努力されることを願う。私は強い関心を持って注視していく。

答 奥村町長 未納金は旧三町合わせ約二億六千万円ある。使用料について全くこの十年間も催促、督促を出していないところもある。現在、督促も出し職員が徴収に努めているが、いろんな余波も起っている。

議員の皆さんが保証人になられていけば表に出て対応を、皆さんの協力を得て、未納金問題も解決しなければならぬ。

町政を

補助金・助成金の整理統合をどうするか ゼロからの見直しも必要

Q

A

問 今回の合併は、財政問題を大きな契機として進められた。住民自治の実現が合併の着地点とと思う。

行財政改革と協働のまちづくりの組織づくりでは、区長を中心とした各種団体、さらに社会福祉協議会、NPO法人も含めたもので進めてはどうか。

新しいまちづくりを進めるために、補助金・助成金は、美咲町を一つにするためにはゼロから組み立て直



小島洋征 議員

す姿勢が必要。補助金などの整理統合をどのように進めていくのか。

また、真の住民自治の名に値する地域の協同体運営には権限、財源の移譲が不可欠である。組織・団体を通じて国への強力な働きかけが必要だ。

答 奥村町長
補助金など、財政の見直しは一定の期間を経た

らゼロから見直しも必要と考える。十七年度は調整期間であり、合併協議では十分な内容把握ができていない。

七月に行政改革をするため機構改革をし、政策、企画をする課を設けてすべてのものを洗い出している。三地区が平等である補助制度を設けたい。

協働のまちづくりでは町民参加の行政。知恵も希望も住民の声を取り入れて、一緒に考え、つくること。ただ地域的な条件差もあり、多少の配慮も必要と考える。



できたかナァー（授業風景）

Q 教育現場にカウンセラーを

A 国の制度は不十分

一層の充実を図る

問 経済社会状況の進展が子どもに限らず、大人も心の障害を受けやすい社会となっている。特に影響を受けやすい子どもたちに対して、教育行政でも取り組んでいると思う。問題はどこにあるのか。困難な課題ではあるが、教育現場にカウンセラーを専門とする人材を置く必要がある。

また、社会経験の豊かな人に教育、教壇に立つようなシステムも必要。社会変化を認識し、対応策を考えたいべきではないか。

答 中力教育長
経済社会状況の進展、少子・高齢化など子どもたちを取り囲む環境は複雑、多様化している。

不登校、問題行動などの発生要因がはつきりつかめていない。学校での指導体制だけでは難しい。子どもたちの悩みや不安を受けとめて相談にあたるのが大切。

国は十七年度に専門のカウンセラーを一人、全国で配置する計画。美作地区に二人、週一時間程度の予定で配置されている。

美咲町では、国の制度で教育活動を支援するスクールサポーターを町内中学校に置いている。

教育委員会としては、児童・生徒の不登校、暴力行為などの問題解決のためには学校における一層の指導体制の充実を図る。

未然防止、早期解決に向けた学校・家庭・地域との連携した取り組みが必要であると考える。

一般質問

幹部職員の
中途退職は!!

A 公の場での議論は
差し控えたい



安藤暢昭 議員

る。本人のプライバシーの問題もある。公の場で議論するのは差し控えたい。

問 五月末、幹部職員が突然退職した。辞めたのではなく、辞めさせられたの噂もある。本人は新町で熱意に燃えていたと思う。超過勤務で肉体的にも精神的にも極限に達した。町長の言動などに追い詰められ、退職以外に選ぶ道はなくなったと思う。退職後考えてみれば強要だと、七月に県の人事委員会に不利益処分の不服申し立てをした。

答 経過とを考え尋ねる。
奥村町長 人事委員会を通して不服申し立てがされている

きないように、合意を得ながら誠心誠意頑張る姿勢を職員に指導したい。



希望の持てる米づくりを（農業公社の稲刈り）

Q 水田農業を守れ

A 安心安全な米づくりで

問 新町に引き継いでいる農業公社を、どう評価しているか。

答 旧柵原町で期待され信頼された経過がある。農業公社を美咲町全体へ拡大する考えはないか。

奥村町長 率直に十分把握しきれない。町も投資しており、存続していかねければと考えている。

現在、農家の需要について担当課に調査を指示している。

問 米政策改革大綱に基づいた水田農業の改革が、中小農家を切り捨て、農業を崩壊させている。低米価など水田の維持を心配している。

答 町の水田農業は小規模で、地形的にも不利な条件である。基本的には理解する。安心・安全な米づくり、地産地消などのさまざまな努力をした。

町独自の米対策、所得補償は非常に難しい。米づくりに対する考えは、地産地消を根気強く進めることが、地域の農業を守ることになればと思う。

また、日本の水田農業の状況を町村会へ積極的に訴

町長の政治信条、倫理、公正、平等、立派な指針であり町政執行の基本であると思う。職員にも同様に対処すべきだ。この件は、その言葉が空々しく聞こえる。

退職願の日付を書き直すことが常識上考えられるか。

奥村町長 間違ったことは指摘し、改めさせ、意識の向上を図ることが町長の責務である。

退職日の件は、理由を尋ねたが、私から指示したわけではない。

この件で、職員と執行部の信頼、団結、結果に支障はないか。

奥村町長 指摘されたことの起



下山和由 議員

Q 支所機能が低下の声

A 不慣れも認めるが 住民も理解を

問 合併は行政水準の維持・向上を目的としている。合併による負担増やサービスの低下はないか。

住民から支所としての機能が低下、住民サービスが悪くなったなどの声も聞くが。

奥村町長

答 合併して半年、七月に人事異動もした。確かに不便などあつてはならない。しかし、今すぐ結果をというのは勘弁願いたい。

窓口で待ち時間があるということがあるが、時に少々待つなど、住民にも理解をいただく場面もあるかと思う。

今後とも職員に意識の改革をするよう努める。

Q ピオオーネに 町助成を

A 県・町で 二分の一

問 特産物の生産向上に 関係者も努力されている。県の補助に町も上乘せし事業の振興を図られたい。県は「ピオオーネ王国お

かやま」に取り組み推奨している。

町の方針を問う。

池上産業一課長

答 岡山県のピオオーネの生産量は全国一を誇っている。本町に約三十ヘクタールが栽培されている。県の補助金三分の一、町が六分の一に乗せ、計二分の一の補助率で頑張りたいと考えている。

Q 被災林の 復旧計画は

A 五方年以内 に復旧

問 農業機械の大型化が進み、また山林活用対策も待たれている。農道・林道の整備方針を問う。

昨年の台風による被災状況と復旧計画は。

清水建設課長

答 要望により現地調査をし、費用対効果ならびに地域住民、用地提供の状況を勘案し実施できる事業を選択し取り組む。

池上産業一課長
台風による風倒木の被害は、本町では旭、中央

地区が国の激甚災害指定を受けている。

この事業は新しく復旧造林しないと採択されない。申請された造林二十八ヘクタール、作業路千五百メートルを激甚の指定、被害地造林などの指定を受けて復旧する。

五方年以内には二十八ヘクタールを復旧造林することになっている。

Q 文化財の保護を A 積極的保存に努める

保護委員会を立ち上げた。三地区からそれぞれ四人、計十二人の方々に委員を委嘱、調査研究に取り組んでる。

美咲町内には、五十一件が文化財として指定されている。保護は、岡山県文化財保護指導委員が国・県指定の文化財を、最低月一回は巡視している。

写真は上山宮本殿

町でも、職員により巡視している。今後も積極的に保存整備に努める。

造営も特別の型式である。三五〇年の歴史のなか改修も繰り返してきた。近年、拝殿など諸材がいたみ改修保護が望まれている。



上山宮本殿（塚角地区）
寛文5年津山藩主四代森長継造営

問 文化財保護の対策を 早急に取り組んでほしい。今後の文化財保護について町の取り組みは。

瀧村生涯学習課長

答 文化財保護には、合併後いち早く美咲町文化財

一般質問

Q イノシシ対策で 農業意欲の向上を

A 県にも 対策を要望している



岡田 壽 議員

問 国・県の農業振興施策に中山間総合整備事業、中山間直接支払い制度などある。現実には農地の荒廃が進んでいる。担い手、高齢化、収益性など要因も多い。

中山間地域では、鳥獣害、特にイノシシの被害が大き。収穫前に荒らされると作の意欲も失われる。

防護柵設置の条件緩和、捕獲、駆除に、もつと力を入れ、農業、暮らしを守る必要があるのでは。

答 奥村町長 農業は、価格補償もなく所得も低いことで後継

者も育っていない。町としても農業政策の対応に苦慮している。

鳥獣害の問題は、知事を囲む真庭でのサミットでも取り上げられた。町でも県に補助金などの対策を要望し続けている。

農業者、生産者には死活問題。積極的に予算を組みながら、電気柵での防護、駆除を行っていききたい。

池上産業一課長 鳥獣害対策は、中国農政局でも重点課題となっている。

トタンなどの防護柵は、毎年二〇km程度設置。また、イノシシの減少も重要で、八十人の駆除班員にお願いし、昨年は四百十四頭捕獲した。

町では、管理は大変だが効果の高い電気柵に力点をおいて対応する。近県状況から、今後はサル、シカの被害を心配している。

Q 集落営農で 荒廃防止を A 積極的に 推進したい

問 集落営農、農業法人が話題になつていて。

地域のことは地域で守ることが集落営農の基本。高齢化が進んでいる地域では荒廃を防ぐためにも必要と考える。しかし、他人や組織に土地を任せることに不安もある。

集落営農に向け、町、農協、普及センターの力添えがある。協力的体制はできるか。

池上産業一課長 高齢化のなかで、すべての農地を守ることは困難。放牧や豆科の植物でする農地の荒廃防止の試みもある。



集落営農の説明会（津山市）

町内では一ha以下の栽培農家が九〇%、三ha以上は三%である。自給だけの農家も三〇%にのぼる。農業機械への投資も多額になり、農業公社の活用、集落営農の推進を積極的に考えている。

集落営農は一〇ha単位ぐらいで組織したい。集落営農には県の農機具購入補助制度もあり、利用されたい。話し合いの場には、進んで参加させていただく。

Q 農林業公社 の設立を

A 林業は 森林組合に

問 柵原地区農業公社の町内全域での活用、および林業を含めた農林業公社の設立を急げ。

奥村町長 農林業が基幹産業だった町である。農林業が生活の糧になるようにと考えている。

現在、農家の意志を確認するアンケート調査を検討中である。柵原の農業公社へ設立時に投資しており、要望があれば公社を活用したい。

林業は、森林組合が積極的に作業を請負っている。森林組合を利用されたい。



熱心に説明を聴く住民（中地区）

Q 協働のまちづくり
説明の経過は

A みんなで話し合う
場づくりが一番



三船勝之 議員

問 協働のまちづくりの説明会が各地で行われた。経過ならびに、組織づくりなど結果はどうか。

答 松島政策企画二課長
地区で話し合いをし

てもらい課題や問題点を出してもらおう。行政でできることは行政で、そして『自分たちでできるものは自分たちでやっていく』住民にそういった意識を持ってもらおうよう説明している。区長などに、まちづくりのリーダーになってもらうよう講習会など開催していく。

問 合併協議でも、行政区域が広くなったら住民の声が行政に届かないなど、地区の課題の解決に向けて協働のまちづくりを推進しようという事だと思

う。
説明会では行政の仕事を住民に押しつけているようだと聞く。一回の説明会では住民は十分理解していない。まずは分かりやすい説明を。

区長中心の協議会と、町執行部の入った協働のまちづくり組織の設立が必要ではないか。

答 松島政策企画二課長
組織ができたら協働のまちづくりがうまくいくというものではないと思

う。地区で十分話し合える場をつくるのが一番。意見を協働のまちづくり組織で集約すると組織として機能していくと思う。行財政改革を行うなかで、協働のまちづくりに支援策を検討していきたい。協働のまちづくりは美咲町の重要施策である。住民に理解していただけよう努力する。

Q 廃校の跡地利用は
A 第三保育園は
児童館に



跡地利用の妙案は？（厚生小学校）

問 中央地区小学校の統合により、大井和・打穴・厚生小が廃校になる。跡地利用について現在の状況を聞く。

ほかの二校は、集合住宅・高齢者の共同生活の場に使用しないか研究している。

答 奥村町長
小学校ならびに保育園の跡地利用は政府および

文部科学省も多目的利用を認めていく方向に変わっている。大井和小学校は、民間の活力も借り、国土交通省の補助事業で柵田を含む大井和の総合開発の中に施設を使っていく計画である。

第三保育園は児童保育を兼ねた児童館とお年寄りの集う福祉施設にしてい

中央地区の第二保育園は計画しているラストワンマイル事業の拠点に。また、

補助金も決定、設計に入っている。鋭意努力し有効利用に努めたい。

問 合併により町も大きくなった。老人保健施設としての利用はできないのか。計画がないなら民間に無料で貸すという方法はないか。

答 奥村町長
難しいが国・県とも相談し努力したい。

一般質問

中山間地域の将来像を示せ

地域の实情に合った取り組みを推進



最上 忠 議員

中山間地域等直接支払制度は今年度から内容を刷新して五力年計画でスタートした。八月末までに集落協定を提出。集落の将来像を明確にすることなどが義務付けられている。協定づくりを通して中山間地域の活性化をあらためて話し合う機会にすべきと考える。

将来像を描いた集落マスタープランの作成など、高齢によって今後の展望が描きにくい地域もあると思う。五年間で築き上げたこの制度の実績を新たな対策によってどう発展させるか

指導する必要がある。どう考えるか。

また、新しい食料・農業・農村基本計画のなかで、十九年度からスタートする予定の農地や農業用水などの地域資源を守る資源保全施策と直接支払制度との関連性はあるのか。

池上産業一課長

直接支払制度は一期対策が十六年度で終了。五力年の交付金の額は美咲町全体で十億円に達した。それぞれの地域で活性化や農地の保全に使われ、単に農地を守ればよかった。

二期対策では集落の十年から十五年後の地域が目指す理想像を目標とする。今まで通りでは交付単価も八割水準となる。

町の方針は、担い手、集落営農の問題、鳥獣害対策、地産地消の推進などを計画

し、地域の实情に合った取り組みをお願いしている。資源保全施策は、岡山県下で七カ所の調査地区に大井地区が対象になってい

る。詳しいことは分かっていないが十九年度から新しい対策がスタートすることは聞いている。



集落の共同作業（飯岡集落）

地震に強い集落づくりを

防災の連携的な

協議会をつくる

地震災害はとかく都市に関心が集まりが、は特に中山間地域特有の問

題を浮かび上がらせた。土砂災害の多発で道路が寸断、通信機能も悪化、集落が完全に孤立する問題があった。今回の合併を防災力向上の契機と位置付け、地震、災害に強い集落づくりを進めるべきではないか。

奥村町長

防災の連携的な協議会をつくる。条件的なものもある。まずは柵原地区で防災水防会議を開催。

予測できないのが地震で、当町では一番怖いのは土石流などの被害と考える。孤立する集落については、防災会議で検討する。中央地区は消防各部へ発電機を配置している。これを全町に広げていくことを考える。被災者に対応するため、協働のまちづくりのなかで地域の身近な防災も考えてほしい。

町としても安心安全な地域づくり、災害に強い集落づくりをするため頑張っていく。

Q 柵原地区での
発言の真意は

A 財政など
真実を話した



大神式之 議員

問 美咲町政のスタートにあたり、町長は、柵原地区の弱点を柵原地区民の前で発言し、住民は大きなダメージを受けている。そのことをどう受けとめているのか。

答 奥村町長 相手を侮辱するような言葉は使っていない。この地区の財政状況は、非常に厳しかったなどの真実を話し、理解を訴えた。この点を理解していただかなくては新しいまちづくりはできない。

問 合併した篠山市の職員に聞くと、本庁舎の

ある地域以外の職員は、本庁舎で仕事をする際、自身の狭い思いをしていると言っていた。柵原、旭地区から来た本庁の職員も、そういう思いではないかと察している。

答 奥村町長 町長は、職員の立場をどのように理解しているのか。

美咲町の職員として色分けをしているつもりはない。レベル、価値観は、そろえなければならぬ。そのために、職員の改善点は指摘している。

職員のレベルアップと住民サービスには、とことんこだわっていく。



私も一役（北和気コミュニティーの納涼祭）

Q 機構改革は急ぎ過ぎでは

A 時間はかかるが良い方向に

問 七月の機構改革により、柵原総合支所の職員が五人減り、窓口が混乱している。合併協議の中で、総合支所の充実を言っているが、

答 奥村町長 職員の人事異動により、視界が広くなったという声も聞いている。当面は、住民の皆さんからも職員の顔が分からないということもあるが、時間をかけて見ていただき、良い方向に持っていきたい。

Q 説明会は
疑問

A 修正し出発

問 柵原のコミュニティー活動は、五地区それぞれが素晴らしいエネルギーを持って行っている。ここにこそ協働のまちづくりの芽があると思う。

また、説明会で行政と住民との話がかみ合っていないかった。どのように考えているのか。

答 奥村町長 担当課も、協働のまちづくりそのものをきちんとつかめないまま出発したと思う。現在修正している。考え方、思いは、同じである。

組合議会などの報告

各種の組合議会とも、合併による議会人事、条例改正が提案の主なものである。

昨年十月に取得した津山駅前の中鉄バスセンターの整備に八千百万円を追加、ふるさと振興基金の取り崩しに対応する。バスセンターは十月から新築工事に着工、来年三月完成予定。

津山広域事務組合議会

臨時会が七月八日開催。

七議案が提案、原案通り可決。

主なものは、ふるさと振興事業特別会計補正予算。

議長 森下 寛明 (津山市)

副議長 植月 彬 (勝央町)

監査委員 安藤 暢昭 (美咲町)



工事を待つ津山広域バスセンター

津山圏域消防組合議会

臨時会が七月八日津山市で開催、三案件が提案、可決・承認した。

主なものは、高規格救急自動車を日本原出張所に配備する二千九百万円である。

議長 森下 寛明 (津山市)

副議長 高井 一男 (奈義町)

監査委員 山崎 博嗣 (鏡野町)



津山圏域消防組合旭出張所

津山地区農業共済事務組合議会

臨時会が七月八日津山市で開催され、二案件が提案、可決・同意した。

報告事項として、共済事務組合の事務所を津山市河辺の借家から旧勝北町役場に移転。

市町村合併で共済事務組合は一市十町一村から一市三町となった。今後は、この組合の合併を視野に入れる必要があるとのこと。

議長 吉田 耕造 (津山市)

副議長 中江 賢一 (鏡野町)

監査委員 前 久光 (久米南町)

柵原、吉井、英田火葬場施設組合議会

臨時会が七月十五日開催され、六件が提案、可決・承認した。

主なものは、葬祭センター事業に千六百万円を翌年度に繰り越して使用する補正予算である。

議長 西山 和嘉 (赤磐市)

副議長 下山 和由 (美咲町)

監査委員 青山鶏太郎 (美作市)

また、管理者に奥村忠夫美咲町長を選任。



コスモスクリーンセンター（中部環境施設組合）

柵原吉井特別養護老人ホーム組合議会

臨時会が七月二十日開催され、報告三件、提案三件があり、全会一致で可決・承認した。

主なものは、人事案件、議 長 大神 式之

副議長 下山 哲司

監査委員 西山 和嘉

(赤磐市)

(赤磐市)

岡本 英一

(美咲町)

中部環境施設組合議会

臨時会が八月十一日開催。七議案が提案され、全会一致で可決した。

主なものは、白煙防止器の取り替え費用の二千三百万円、分別収集置場工事費四百万円である。

議 長 小谷 孝佳

副議長 定本 一友

監査委員 矢木 康敬

(美咲町)



静香園（久米老人ホーム組合）

久米老人ホーム組合議会

定例会が九月八日開催され、四件が提案、全会一致で可決した。

主なものは、十六年度決算で、経費節減により二千万円の黒字。その内一千万円を基金に積む。

議 長 貝阿彌幸善

(美咲町)

副議長 北本 周作

(津山市)

勝英衛生施設組合議会

平成十七年、第二回議会が十月十四日開催され、四件が提案、全会一致で承認・可決した。

主なものは、十六年度決算、歳入二億二千六百四十万円、歳出二億千四百六十万円、差し引き千八百八十万円の黒字決算。

十七年度、補正予算（第一号）補正額六百六十二万円。これは、十六年度決算見込額より繰り越し増となり予備費に計上。

議 長 万殿 紘行

(美作市)

監査委員 草苅 修

(美咲町)

岡山県北森林・林業活性化促進議員連盟

合併により四市七町村で組織、会長に森西議員（津山市）を選任、副会長五人、理事八人を選任。各市町村の負担金計八十四万円で運営する。

木質バイオマスの調査研究が主な事業である。

「第六回森林を考える岡山県民のつどい」を十一月五日に開催した。

ラストワンマイル整備事業

光ファイバ先進地 建部町視察研修報告

まちづくり調査研究特別委員会

建部町

平成16年サービス開始

十月十三日、光ファイバ

網による通信インターネット（と放送（ケーブルテレビ）をすでに運営され県下でも先進地である建部町を訪れ、光ファイバ関係の視察研修をした。

建部町では平成十四年度から三力年で光ファイバ敷設（約230km）放送設備を整備、事業費約十三億円。インターネットは平成十六年一月からサービス開始現在、全世帯（約二四〇〇世帯）が利用可能。

町が整備した設備は放送事業者、岡山ネットワーク（株）（オニビジョン）と契約しテレビは本年四月から開始、最大68チャンネル。

町独自の番組放送も

テレビには一チャンネル町が独自で番組を製作。

製作には原稿班・撮影班・編集班・アナウンス班に分け、約三十人の職員で

編成。

町のホットニュース、町のできごと、学校などの各種行事を放送。また、町の行事、各課からのお知らせは文字放送。番組は、およそ五十分のサイクルで二十四時間放映されている。町で作成したテレビも視聴するなど熱心に研修した。



説明を聴く特別委員会メンバー

テレビも変わる 美咲町の 通信網整備へ

美咲町は、民間による光ファイバ網整備は望めない地域である。町内のインターネット利用者はNTT回線を利用。多くの地域では情報通信に時間を要するため高速化整備の期待が大きい。

現在のアナログテレビ放送は平成二十三年に終了、地上デジタル放送に移行。町内は一層、難視聴地域の拡大が心配されている。

県北山間地の多くは同様のことから各自自治体でも通信網整備を計画。



九月定例会を中心とした「議会だより」をお届けします。合併後八カ月が経過し、それぞれの地区のすばらしい歴史を継承しながら、統一した新しい町づくりに、そして住んでよかったという活力ある町づくりに共に頑張りましょう。もうすぐ師走、寒さもますます厳しくなります。ご自愛ください。

（日神山記）

- 委員長 岡田 壽
- 副委員長 日神山定茂
- 最上 忠
- 貝阿彌幸善
- 松島 啓
- 寒竹 壽

光ファイバ網敷設によりテレビの難視聴の解消と都市部と同様の超高速インターネットアクセスが可能、ならびに町からの防災通報、業務連絡など、近い将来多様な利活用が考えられる。このことから美咲町全域に光ファイバ敷設を計画。すでに町担当課では地区単位で説明会も行っている。

編集後記

国体も大成功に終わり町民の皆さんもホッとされているところではないでしょうか。美咲町を全国へアピールする実り多い大会だったと思います。国体で育った美しい花と、町民みんな協力して大会を成功させたという財産を、今後わが町の発展に役立てればと思います。